

京都フードテック構想（仮称）の実現について

【担当省庁】内閣府、農林水産省

京都が持つ和食文化の力や京もの食材のブランド力に、フードテックを掛け合わせ、京都らしい食のイノベーションを興し、新たなブランド価値や新市場の創出と、食に関する世界的課題の解決への貢献を目指す「京都フードテック構想(仮称)」に取り組むこととしている。

については、同構想の実現に必要な研究・開発・集積拠点の整備や、業種・企業間の枠を超えたオープンイノベーションによる商品開発プロジェクト(開発・評価・商品化)など、ハード・ソフト両面から複数年にわたって総合的に支援する補助制度を創設・拡充していただきたい。

【現状・課題等】

■フードテックの重要性について

- ▶ 国では、「みどりの食料システム戦略」に基づいて、持続可能な食料システムの構築を進めており、その中でフードテックは重要な位置付け
- ▶ 京都府においても、サプライチェーンの環境負荷低減や健康志向といった消費者ニーズの変化に対応した次世代型農林水産業を構築する上で、フードテックをキーテクノロジーとして位置付け、「京都フードテック構想(仮称)」を打ち出し
- ▶ 「京都フードテック構想(仮称)」を実現するために、地方創生拠点整備交付金や農林水産省のソフト事業といった個別の支援ではなく、複数年の事業計画を総合的に支援いただける補助制度を創設いただきたい。

■「京都フードテック構想（仮称）」の核となる拠点

- ▶ 一次産業の研究拠点（京都府農林水産技術センターの機能強化）
 - ・高機能性新品種や有機栽培、スマート技術など、次世代型農林水産業に向けた生産技術の研究開発・実証、また、「フードテック研究機構（仮称）」を新しく組成し、大学や民間研究機関等とのフードテックに係る共同研究を推進する拠点
- ▶ 機能性加工食品等の開発拠点（オープンイノベーションラボの新設）
 - ・「フードテック研究機構（仮称）」のシーズと加工企業をつなぎ、最新の冷凍技術を活用した中食などの試作品を開発・評価・品質向上するオープンイノベーション拠点
- ▶ 食の最先端研究と関連製造企業の集積拠点（けいはんな学研都市）
 - ・健康食品や次世代食品、流通技術など、最先端領域の研究と、特色ある「食」関連製造企業の集積拠点

京都府の 担 当 課	文化スポーツ部 文化政策室(075-414-4521) 商工労働観光部 文化学術研究都市推進課(075-414-5194) 農林水産部 流通・ブランド戦略課(075-414-4968)
---------------	--

【国の事業等】

- 新事業創出・食品産業課題解決に向けた支援〔農林水産省〕 2億円
 (うちフードテックを活用した新しいビジネスモデル実証事業 30百万円)
- スマート農業の総合推進対策〔農林水産省〕 1,404百万円(令和3年度補正 48.5億円)
- 地方創生推進交付金〔内閣府〕 1,000億円(うち地方創生拠点整備交付金 70億円)

【京都府の取組】

- 産業創造リーディングゾーン(仮称)
 - ▶各地の歴史や産業集積の状況などの地域の特性を踏まえ、産学官や内外の人材が交流することで、新たな産業創造を行えるリーディングゾーン(仮称)を構築(個別分野として、「京都フードテック構想(仮称)の実現」を位置づけ)し、その効果を府内全域に波及させていくことで京都府の均衡ある発展を創出
- 「京都食ビジネスプラットフォーム」の設置(令和3年11月)
 - ▶農林水産事業者、食関係企業、大学等研究機関、IT・流通などの幅広い関連産業が参画したプラットフォームによる異業種交流・社会実証・新事業創出・スタートアップ支援等を通して、フードテックの社会実装を実現

